

金賞 田根 剛君

北海道東海大学芸術工学部建築学科

空気のような建築—新たなる設計方法論—

人々が寄り集まり活動する空間づくりに、興味ある計画アプローチを示した作品である。図書館や会合の場などを計画する場合、用途から空間をつくるのではなく空間のボリュームの違いに着目し、広さと高さが大小で、使い勝手に融通性のある空間の組合せによって仕立てる方法である。この廊下がなく大小の空間の通り抜けの連続の中で展開される様々な市民活動が、その空間の境界のなさによって相互にふれあい、啓発され、空気のように流動化する様子が見てとれる。建築の公共性、公開性、参加性を率直に示した提案である。ただ、空間のサイズと個数が多い提案となって、迷路のような空間の複雑さが目立ってしまった感がある点、残念である。

(文責：斉藤 徹)